

DTPの歴史

QuarkXpress

1987年Quark社から発売

Unicode・OpenTypeフォントへの対応
Illustrator・Photoshopのai、psdに
対応2009年(Ver8.2)

InDesign、idml形式のファイル
をインポート対応
QuarkXpress 2020が最新

PageMaker

1986年Aldus社から発売

1994年にAdobe Systems社が
Aldus社を買収。

InDesign CS2発売により、PageMaker 7.0以降の開発を
中止、PageMakerユーザーにはInDesign CS2(その後
CS4)へのアップグレードを推奨。

InDesign

1999年Adobe Systems社から発売

InDesign CC 2019が最新

FrameMaker

アメリカの物理学者が論文作成用に
作成し、普及。
1986年Frame Technology社が創設され、
FrameMakerとして発売。

+SGML

1995年Adobe Systems社が
買収

XML

2002年

DITA

2005年(Ver7.2)

DITAフル対応

2009年(Ver9)

FrameMaker 2019が最新

1990

2000

2010

2020

Illustrator

1987年Adobe Systems社から発売

Illustrator CC 2019が最新

FreeHand

1988年 Aldus社から発売

2005年 Adobe Systems社はMacromediaを買収。
FreeHand MX発売を最後にFreeHandの開発を中止、
Illustrator CS3へのアップグレードを推奨。

Photoshop

1988年Adobe Systems社から発売

Photoshop CC 2019が最新

日本ではメジャーなDTPソフトではないが、ヨーロッパ、アメ
リカなどでは、日本に比べ普及している(と思う)ソフト。
Adobe Illustratorと同様の機能があり、現在はCorelDRAW
Graphics Suite 2020が最新。詳細はHPで。

CorelDraw

1989年Corel社から発売

SGML: Standard Generalized Markup Language

1986年ISO8879として制定。
出版社、政府、航空業界などで採用。
DTDにより論理的な文書構造を記述するようにした文書
管理言語。

XML: Extensible Markup Language

1998年2月に、XML Version1.0 が正式勧告。文書だけ
でなく、電子データ交換などの機能も持つ。
XMLにより、文書の標準化、自動化、再利用が普及。

HTML: Hyper Text Markup Language

1990年WWWの誕生。

DITA: Darwin Information Typing Architecture

2005年5月、OASISにより承認されたXMLベースの文
書管理仕様。